

言問い(こととい)：50周年記念植樹イチイに命名されたものです。

### 令和6年度 西春別中学校 第9号



令和6年11月29日 発行



< 校 訓 >

自 主 友 愛 有 能

< めざす生徒像 >

- ・自ら学び考える生徒
- ・心と体を鍛える生徒
- ・協働する生徒
- ・郷土を愛する生徒

発行責任者 校長 綾野 正巳

## 偉大なる詩人に感謝

西春別中学校長 綾野 正巳

### 死んだ男の残したものは

作詞：谷川俊太郎

死んだ男の残したものは  
ひとりの妻とひとりの子ども  
他には何も残さなかった  
墓石ひとつ残さなかった

死んだ女の残したものは  
しおれた花とひとりの子ども  
他には何も残さなかった  
着もの一枚残さなかった

死んだ子どもの残したものは  
ねじれた脚と乾いた涙  
他には何も残さなかった  
思い出ひとつ残さなかった

死んだ兵士の残したものは  
こわれた銃とゆがんだ地球  
他には何も残せなかった  
平和ひとつ残せなかった

死んだかれらの残したものは  
生きてるわたし生きてるあなた  
他には誰も残っていない  
他には誰も残っていない

死んだ歴史の残したものは  
輝く今日とまた来るあした  
他には何も残っていない  
他には何も残っていない

11月中旬、谷川俊太郎さん死去という突然の悲報に胸が痛みました。私は、宇宙的なスケールをもつと言われた彼の豊かな感性から創り出される作品が大好きでした。

小学校では、「アレクサンダとぜんまいねずみ」(著者レオ＝レオニ 谷川俊太郎訳)という作品を子ども達に教えました。2年生国語の教科書に掲載されています。昭和55年度版に登場して以来、ずっと掲載されている不屈の名作です。

「相手を思いやる気持ち」が絶妙に描かれた素晴らしい作品です。レオ＝レオニ作品の翻訳としては、「スイミー」も有名です。「スイミー」と谷川さんの絵本「もこもこもこ」は、よく子ども達に読み聞かせていました。他にも、低中学年は「うんこ」、高学年は「朝のリレー」という詩を教室に掲示し、みんなで声を揃えて読んでいました。

現中学校3年生の国語の教科書では「春に」という詩が掲載されており、合唱曲にもなって歌われています。

私だけではなく、日本中の子ども達が彼の作品に触れて大人になっていく、そんな偉大なる詩人でした。

ちなみに、1969年に開校した中標津町立中標津東小学校の校歌の作詞もしています。「むさだけのそびえるかなた」で始まる歌詞は、学校から望める町のシンボル・武佐岳などの情景が織り込まれていますが、当時、児童から校歌の歌詞に織り込んでほしい言葉を集め、谷川さんに送って作られたそうです。

左の詩は、ベトナム戦争さなかの1965年、「ベトナムの平和を願う市民の集会」のためにつくられた詩です。曲も付けられ、多くの歌手に密かに歌い継がれてきました。

谷川さんは生前、「善と悪」のような二分法で世界を見てはならないと語っていました。世界の紛争は「善悪二元論」によって戦われていることが多いからです。「正義の反対は悪ではない。『もう一つの正義』だ」という言葉がありますが、50年前に彼が平和への想いを込めて作った詩を、もう一度見直す時がきているのではないのでしょうか。

今の学校では、対話的な学びを通して、多様な見方、考え方、価値観を理解していくこと、そして、1つの正解「絶対解」を求めるのではなく「納得解」を見いだしていくことが重視されています。その根幹をなす「心の成長」のために、今後も谷川俊太郎さんの作品が引き継がれていくことを願っています。